

子ども図書館おすすめの本

～令和3年春～



中学生、高校生

	題名等	表紙	内容
1	「世界地図の下書き」 朝井 リョウ／作 集英社		両親を事故でなくした小学生の太輔は、児童養護施設「青葉おひさまの家」で暮らし始める。心を閉ざしていた太輔だが、仲間たちとの日々の中で、次第に心を開いてゆく。そして迎える、大切な人との別れ…。『桐島、部活やめるってよ』で鮮烈なデビューを果たした朝井リョウの、大人にも子供にもぜひ読んでもらいたい、新しい児童文学作品。
2	「ハブテトルハブテラン」 中島 京子／作 ポプラ社		ある事件をきっかけに不登校になり、母の故郷である広島県松永の小学校に2学期だけ通うことになった大輔。穏やかな瀬戸内海の町で、破天荒な大人や新しい友達との出会いを通して、次第に元気を取り戻した大輔は、「あること」に決着をつけようと、自転車でしまなみ海道を渡ることにするが…。芥川賞受賞作家である著者唯一の児童文学。
3	「中学生までに読んでおきたい哲学① 愛のうらおもて」 松田 哲夫／編 あすなろ書房		「愛する」ってなんだろう？日常の暮らしの中に潜んでいる哲学的な問いかけを探り当て、自分の頭で考えるきっかけになるような文章を集めたアンソロジー。向田邦子、寺山修司、太宰治といった個性的なラインナップが魅力的で、どこから読んでも楽しめる。「悪のしくみ」「人間をみがいて」「うその楽しみ」といった興味深いテーマからなる全8巻のシリーズものの第1巻。